

## 外部評価実施報告書（まとめ）

| 項目別評価            | 評定   |      |      |
|------------------|------|------|------|
|                  | 委員 1 | 委員 2 | 委員 3 |
| 教育の取組と成果（理学部）    | Ⅲ    | Ⅲ    | Ⅳ    |
| 教育の取組と成果（理工学研究科） | Ⅲ    | Ⅱ    | Ⅲ    |
| 研究の取組と成果         | Ⅳ    | Ⅲ    | Ⅳ    |
| 社会貢献の取組と成果       | Ⅲ    | Ⅱ    | Ⅳ    |

- Ⅳ 学部・研究科の目的に照らして、取組と成果が非常に優れている。
- Ⅲ 学部・研究科の目的に照らして、取組と成果が優れている。
- Ⅱ 学部・研究科の目的に照らして、取組と成果が相応である。
- Ⅰ 学部・研究科の目的に照らして、取組と成果が不十分である。

## 【優れている点】

- ・学部において、1 学科 6 コースカリキュラム制を行いながら、専門分野の学びと分野横断的な学修の両立を実現していることが優れている。分野横断的な学修では自ら所属する専門分野以外の授業科目を習得することを求めており、このシステムが学生に役に立っていることは卒業生アンケートにも反映されている。
- ・学部教育のカリキュラムが一つの専門分野以外に他分野を履修し、幅広い知識・技能等を学べるように非常にうまく組まれている。また、カリキュラムツリー等を用いて、これらの履修法が学生便覧に分かり易く提示されている。
- ・就職希望者数における就職率 100% をキープし続けていることは大変優れた点として評価に値する。コースカリキュラム選択、分野横断履修等、時代に応じた教育実施体制がしっかりしており、各コース特有の教育研究を進めるなか理学科としての CP・DP を全うしている点はすばらしい。
- ・学部・研究科における論文業績が前回審査より上回っており、特に近年この上昇は顕著である。学長のリーダーシップによる特定分野の重点的強化が業績向上に貢献しており、地方大学として限られたリソースを活かした戦略として他大学のモデルとなり得る。

## 【改善を要する点】

- ・現時点で改善を要する大きな問題点は見当たらない。強いてあげれば、学部卒業生の就職先へのアンケートにおいて、「専門分野の知識・能力」が活かされていることに対するポイントが低い点が挙げられる。実際には「論理的に考える能力」、「課題発見、解決能力」は教育効果と見なすことができ、また理学という分野において、必ずしも学生が専門分野に合致する就職ができていないためと解釈できる。
- ・ここ 5 年間の後期日程の入試において、入学者数が募集人数に達しておらず、前期日程の入試の入学者で補充している。後期日程の募集人数の検討が必要と思われる。
- ・地球共生圏科学専攻の修了率、特に、標準修業年限内の修了率向上に向けた対策をとる必要がある。

【委員からの助言、提言等】

- ・全体的にDP、CP、APはよく練られており教育システムもシンプルで分かり易く、研究・地域貢献に関しても活発に行われ問題は認められない。このままのアクティビティを維持していただきたい。ただ一つ懸念点として、2年次のコース選定において、今後、特定のコースに人気が集中し、調整が必要な事案が発生する可能性がある。この時の対応について便覧に明示することを今後検討した方が良いと思われる。
- ・専門及び英語教育で、特に、生成AIをどのように活用して学生の能力を向上させるのかは、貴学部に限らず教育研究面で必要になってくると思われるので常に教員が先端研究のアップデートをして学生に教授していく必要がある。
- ・山形大学理学部・理工学研究科の教育プログラムは、第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえて内閣府が推進している「総合知」の概念と合致する優れたものである。大学として特定分野に資産を重点配分することで、近年優れた研究成果が得られている。大学院進学者数が近年増加傾向であることから、今後は専門知識を身に付けて「総合知」を活用できる優れた人材を産業界・行政・教育分野に送り出していくことを期待したい。

## 評価観点（まとめ）

### 1 教育

|                                                                             |    |
|-----------------------------------------------------------------------------|----|
| 1 学位授与の方針(DP)が具体的かつ明確に定められているか。                                             | 適合 |
| 2 教育課程の編成・実施の方針(CP)が学位授与の方針(DP)と整合しているか。                                    | 適合 |
| 3 入学者の受入方針(AP)において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示しているか。                       | 適合 |
| 4 入学者の受入方針(AP)に則して、適切な学生の受入が行われているか。                                        | 適合 |
| 5 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっているか。                                                | 適合 |
| 6 教育プログラムを構成する各授業科目の内容は、学位授与の方針(DP)及び教育課程の編成・実施の方針(CP)に則して、体系的かつ相応しい水準にあるか。 | 適合 |
| 7 学位授与の方針(DP)及び教育課程の編成・実施の方針(CP)に則して、適切な授業形態、学習指導方法が採用されているか。               | 適合 |
| 8 教育課程の編成・実施の方針(CP)に則して、公正かつ厳格な成績評価が行われているか。                                | 適合 |
| 9 教育プログラムに対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されているか。                                      | 適合 |
| 10 学位授与の方針(DP)に則して、適切な履修指導、支援が行われているか。                                      | 適合 |
| 11 生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われているか。                                 | 適合 |
| 12 学位授与の方針(DP)に則して、公正な卒業(修了)判定が行われているか。                                     | 適合 |
| 13 学位授与の方針(DP)に則して、適切な学習成果が得られているか。                                         | 適合 |

### 2 研究

|                                                                                                            |    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1 研究活動の実施状況（例えば、研究出版物、研究発表、特許、その他の成果物の公表状況、国内外の大学・研究機関との共同研究、地域との連携状況、競争的研究資金への応募状況等）から見て、研究活動が活発に行われているか。 | 適合 |
| 2 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するためのシステムが適切に整備され、機能しているか。                                               | 適合 |

### 3 地域・社会貢献

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 1 教育及び研究を通して、地域や社会の発展に資するような活動が行われているか。 | 適合 |
|-----------------------------------------|----|